

県北地域 サイクルツーリズム推進協議会

第1回協議会

令和2年7月31日

〈 内 容 〉

- 1 モデルルート(案)について
- 2 今後の進め方(案)について

1 モデルルート(案)について

1-1 本県の地勢

本県は、首都東京から60～160kmの首都圏北部に位置する。

県内を南北に貫く東北自動車道や東北新幹線、東西に横断する北関東自動車道や水戸線・両毛線、また成田空港からは圏央道を経由してアクセスできるなど、首都圏や隣県からのアクセス性に優れている。

本県の地形は、北部から西部にかけては那須連山・日光連山、東部には八溝山地が並び、中央部から南部にかけては関東平野に開けているため、変化に富んだ魅力的なサイクリングルートづくりが可能である。

図 恵まれた立地条件にある栃木県
[出典]とちぎ元気発信プラン（栃木県）



1-2 本県の魅力

雄大な山々から清らかに流れる河川や緑豊かな里山、田園などが織りなす四季折々の風景を県内随所にみることができるなど、自然と身近にふれあえる環境がある。

また、長い歴史の中で育まれ、現代に守り伝えられてきた歴史的価値の高い世界遺産などがある。本県には、こうした国内外に誇る温泉・歴史・自然・食などの地域資源が豊富に存在する。

温泉



写真
塩原温泉郷
(那須塩原市)

歴史



写真
雲巖寺
(大田原市)

自然



写真
那須高原
(那須町)

食



写真
那須高原のパン
(那須町)

1-3 本県の現状

本県の観光客入込数等は順調に増加しているが、東京圏からの日帰り圏内に位置していることなどから、宿泊数の増加に結び付いていない傾向にある。

したがって、本県を訪れる観光客の滞在性・周遊性を高めることで、より多くの経済効果を地域に波及させる必要があり、また、日本人だけでなく外国人観光客を本県に呼び込むことが必要となる。

表 観光客入込数・宿泊数の推移 [単位：千人、%]
[出典]平成30（2018）年栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果概要（栃木県）

区分	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	H30-29 増減	H30/29 比
入込数	85,425	87,115	90,525	90,923	92,768	95,436	2,669	102.9
宿泊数	7,807	7,875	8,277	8,120	8,360	8,269	▲91	98.9



図 本県の観光客入込数・宿泊数の推移
[出典]栃木県観光交流課調べ



図 外国人延べ宿泊者数 (全国・栃木県)
[出典]観光庁

1-4 自転車を活用した観光づくり

自転車を活用した観光地域づくり(サイクルツーリズムの推進)は全国的に有望視されており、しまなみ海道(広島県・愛媛県)は、その成功事例である。

観光客のニーズが「モノ消費」から体験型観光の「コト消費」へ変化し、滞在コンテンツの充実が求められている中、自転車は、爽快感・雰囲気や自然を肌で感じられ、徒歩とも自動車・公共交通とも異なるスケールで周辺環境の認識が可能であるため、国内外の観光客の来訪を促進できる可能性がある。

■しまなみ海道サイクリングロード(広島県・愛媛県)

多島美で知られる瀬戸内海の絶景をサイクリングしながら
満喫できる延長約70kmのサイクリングロード

<サイクリングロードの様子>



<宿泊施設>ONOMICHI U2

自転車を部屋に
持ち込み可能な宿泊施設



【資料】ONOMICHI U2

▼外国人宿泊者数の推移(愛媛県)



【資料】宿泊旅行統計調査

図 しまなみ海道サイクリングロード(広島県・愛媛県)の例
[出典]国土交通省資料

1-5 サイクルツーリズムにおける課題

本県は、自転車関連イベントが多数開催されるとともに、平地と山地のバランスが良く変化に富んだサイクルルート設定が可能であるなど、多くのサイクリストを惹きつける「自転車先進県」であるにもかかわらず、サイクリングのモデルルート、走行環境整備(路面表示・案内看板等)、受入環境整備(サイクルスタンド、ポンプ/工具の貸出等)、情報発信(ルートマップ作成・ポータルサイト開設等)が未整備である。



写真
那珂川
(大田原市)



写真
那須連山
(那須町)

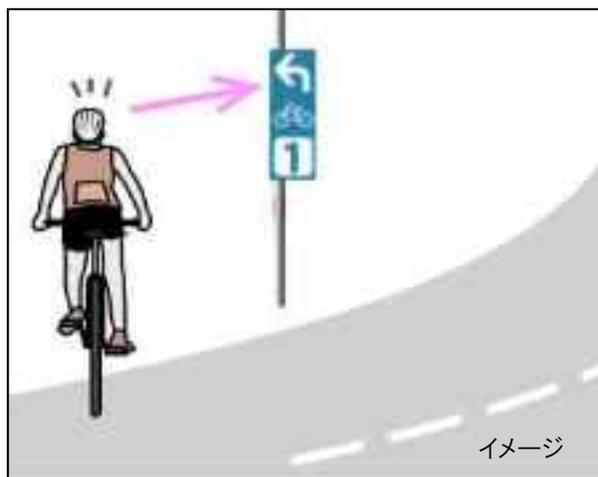
<路面表示>



イメージ

[出典]国土交通省資料

<案内看板>



イメージ

[出典]国土交通省資料

<サイクルスタンド> <ポンプ/工具の貸出>



イメージ

[出典]国土交通省資料

1-6 サイクルツーリズムの目標

令和2(2020)年3月に栃木県自転車活用推進計画を策定し、「自転車先進県とちぎ」のさらなる発展を目指し、その目標の一つが『サイクルツーリズムで成長する“とちぎ”』である。

自転車で地域を巡り、沿線の魅力を楽しむ体験型・交流型旅行の促進や、各種自転車関連イベントの開催等を通じた観光地域づくりを推進し、自転車を活用した地域の活性化を図る。

そのため、自転車の走行環境、サイクリストの受入環境、サイクリングルート沿線の魅力づくりに取り組み、サイクリストの期待に応えるサイクリング環境(モデルルート)を創出する。

○サイクルツーリズムの推進

自転車を活用した観光地域づくり

本県の地域資源



自転車(サイクリング)

「走ってみたい」
サイクリングルート創出
(ハード)

「行ってみたい」
魅力づくり・発信
(ソフト)

- 走行環境整備【県・市町】
- サイクリスト受入環境整備
(ポンプ・工具の配置等)【市町】

- 情報の集約・一元的発信【県】
- 地域の魅力づくり【市町】
- サイクリスト支援
(ガイドボランティア育成等)【市町】

- モデルルートを通じたツアー・イベント等開催、各種取組【民間】

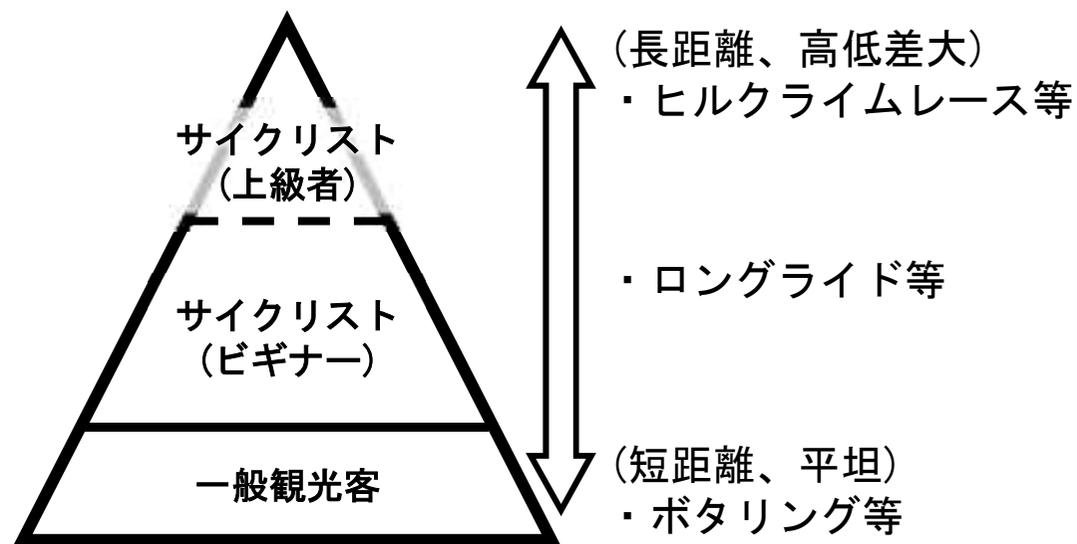
促進

滞在型観光

結果

観光消費額・国内外宿泊数の増加

○ターゲット層のイメージ



⇒本県のサイクルツーリズムは、
全階層がターゲット

1-7 本県のモデルルート(案)

- 県全域、全市町を網羅
- 令和2年度から令和6年度の5年間で、5ルート程度のモデルルートを順次設定
- 1ルート約100km以上で設定
- ルートごとに地域の特性を活かしたサイクルツーリズム促進のための取組を推進
- 本年度は、先進的にサイクルツーリズムに取り組んでいる県北地域を選定



1-8 モデルルート(案)

(1) 全体

○通過市町は、全6市町

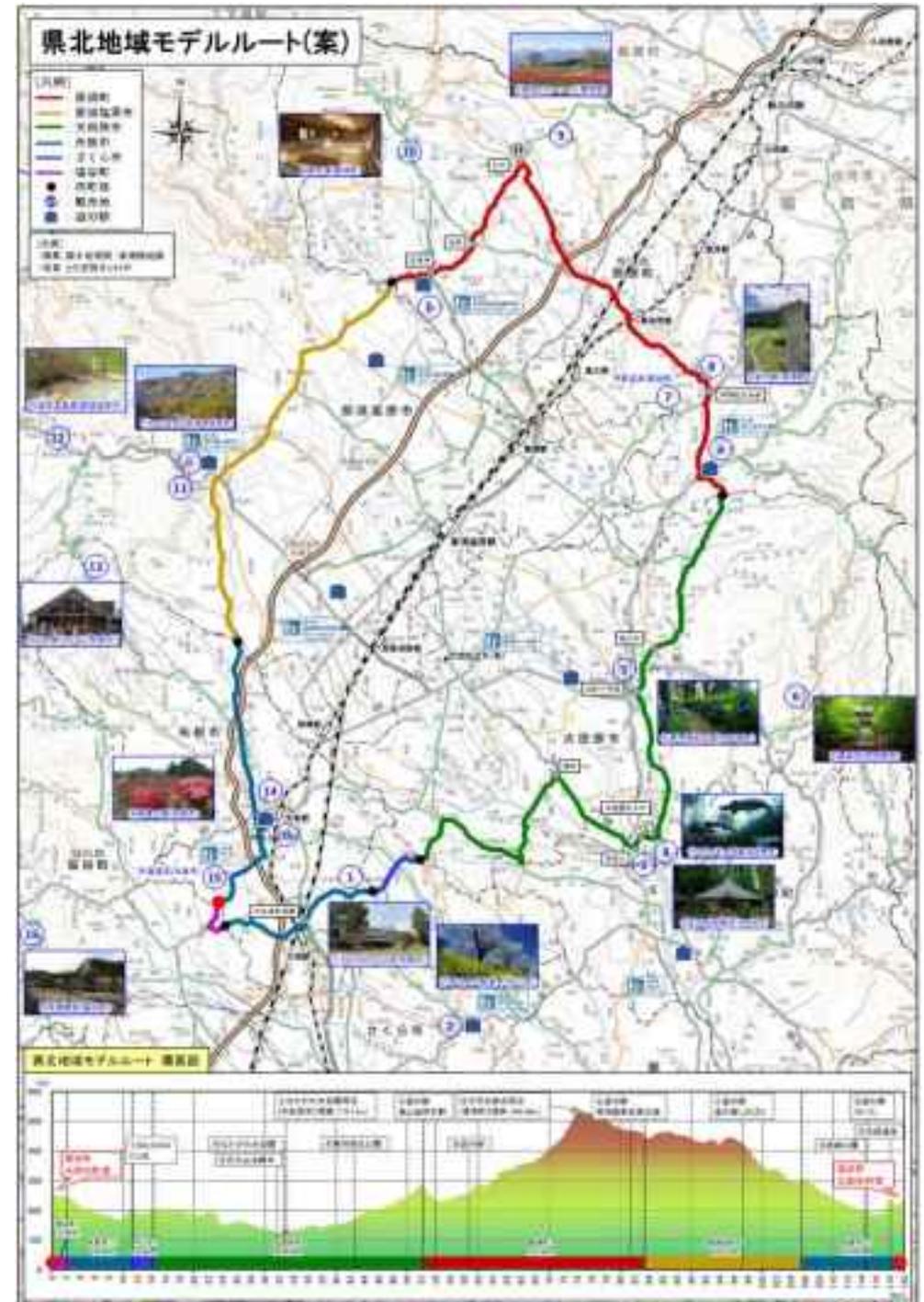
- 1)大田原市、2)矢板市、
- 3)那須塩原市、4)さくら市
- 5)塩谷町、6)那須町

○全延長約120km程度で設定

- 最大標高は約550m
- 最小標高は約120m

○南北にJR東北新幹線と東北本線が貫き
中央には那須塩原駅、南北には片岡駅と
黒田原駅が位置

○JR線の東側のエリアは、那珂川や田園
の風景、社寺等の歴史や文化が魅力
西側のエリアは、那須連山や木々の中の
風景、那須高原ミルク街道沿線の酪農地
域が魅力



1-9 モデルルート(案)のコンセプト

(2) エリア[東側]南部

- 比較的平坦で田園風景の広がるエリア
- レストラン・バイキングや宿泊施設、御朱印が受けられる社寺や水族館など魅力的なコース



写真 JR片岡駅(矢板市)



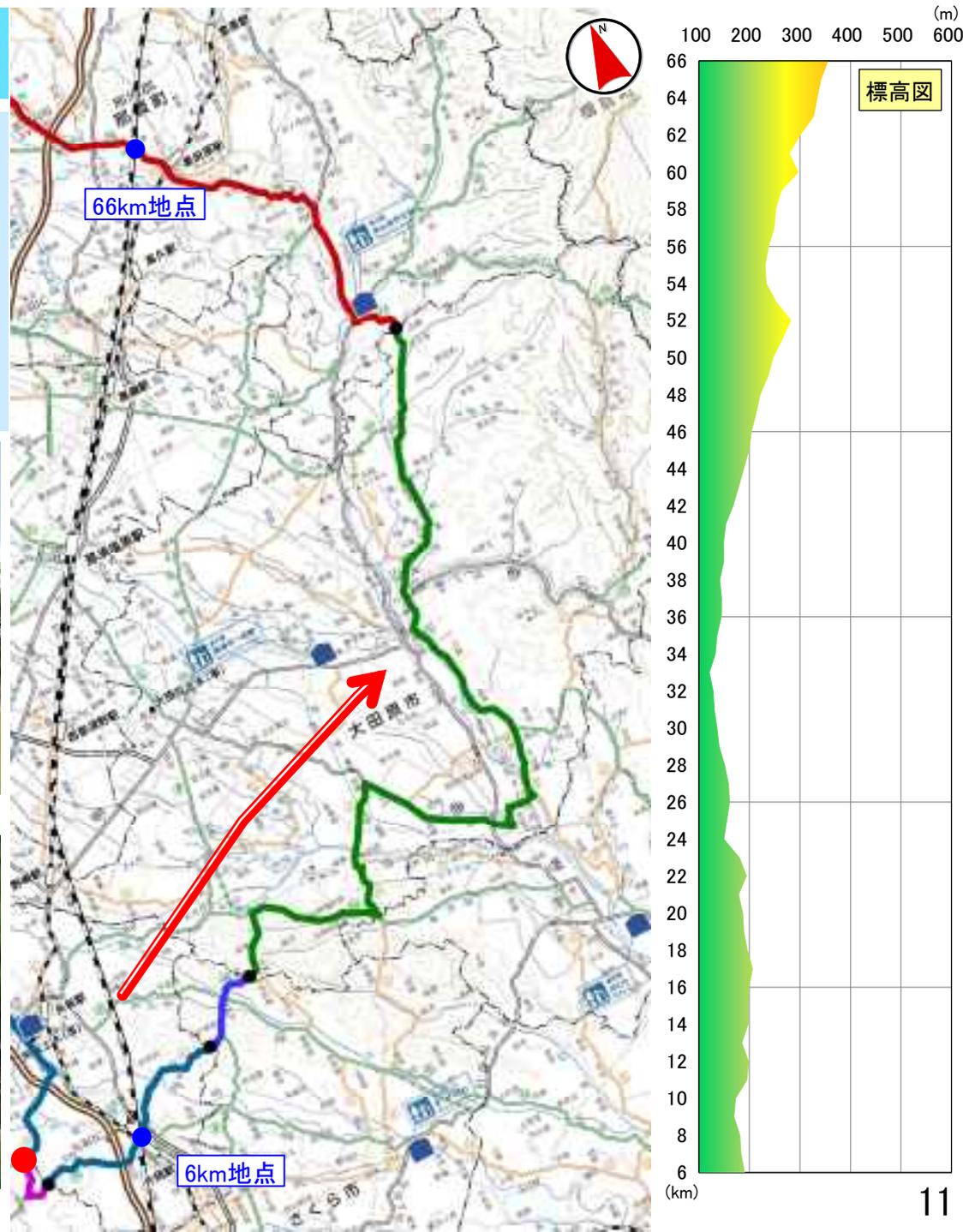
写真 58LOHAS CLUB(矢板市)



写真 大田原市ふれあいの丘(大田原市)



写真 光丸山法輪寺(大田原市)



1-10 モデルルート(案)のコンセプト

(3) エリア[東側]北部

- 那珂川や八溝山系の里山など自然豊かなエリア
- 松尾芭蕉の「奥の細道」で知られ、鮎や蕎麦の特産品や温泉などの観光資源が豊富なコース

写真 道の駅東山道伊王野(那須町)



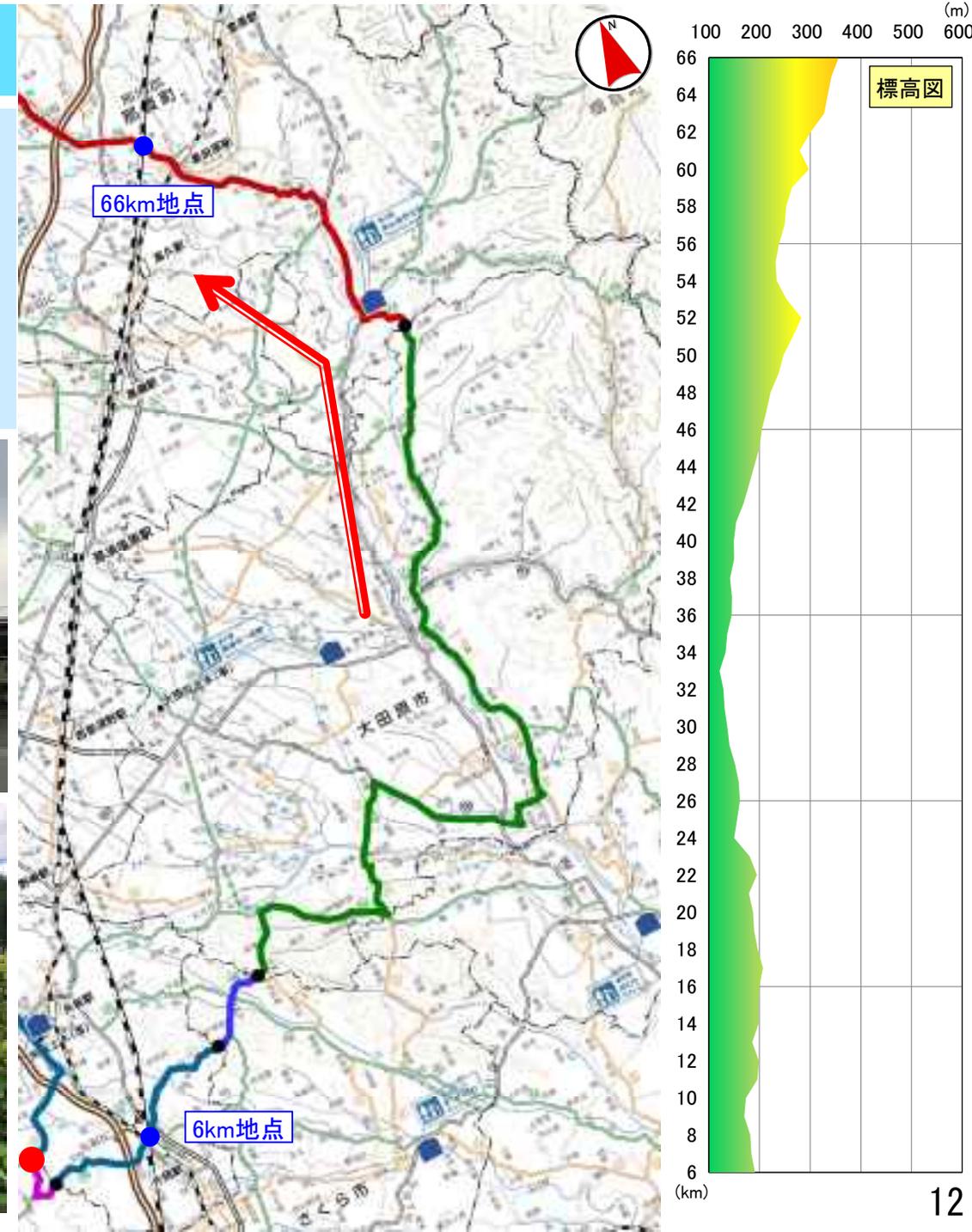
写真 JR黒田原駅(那須町)



写真 県道那須黒羽茂木線と田園の景色(大田原市~那須町)



写真 遊行柳(那須町)



1-11 モデルルート(案)のコンセプト

(4) エリア[西側]北部

- 那須連山の雄大な景色や北海道に次ぐ全国でも有数な酪農エリア
- 温泉旅館やテーマパーク、牧場など那須を代表する総合的なレジャー施設が豊富なコース



写真 那須連山(那須町)



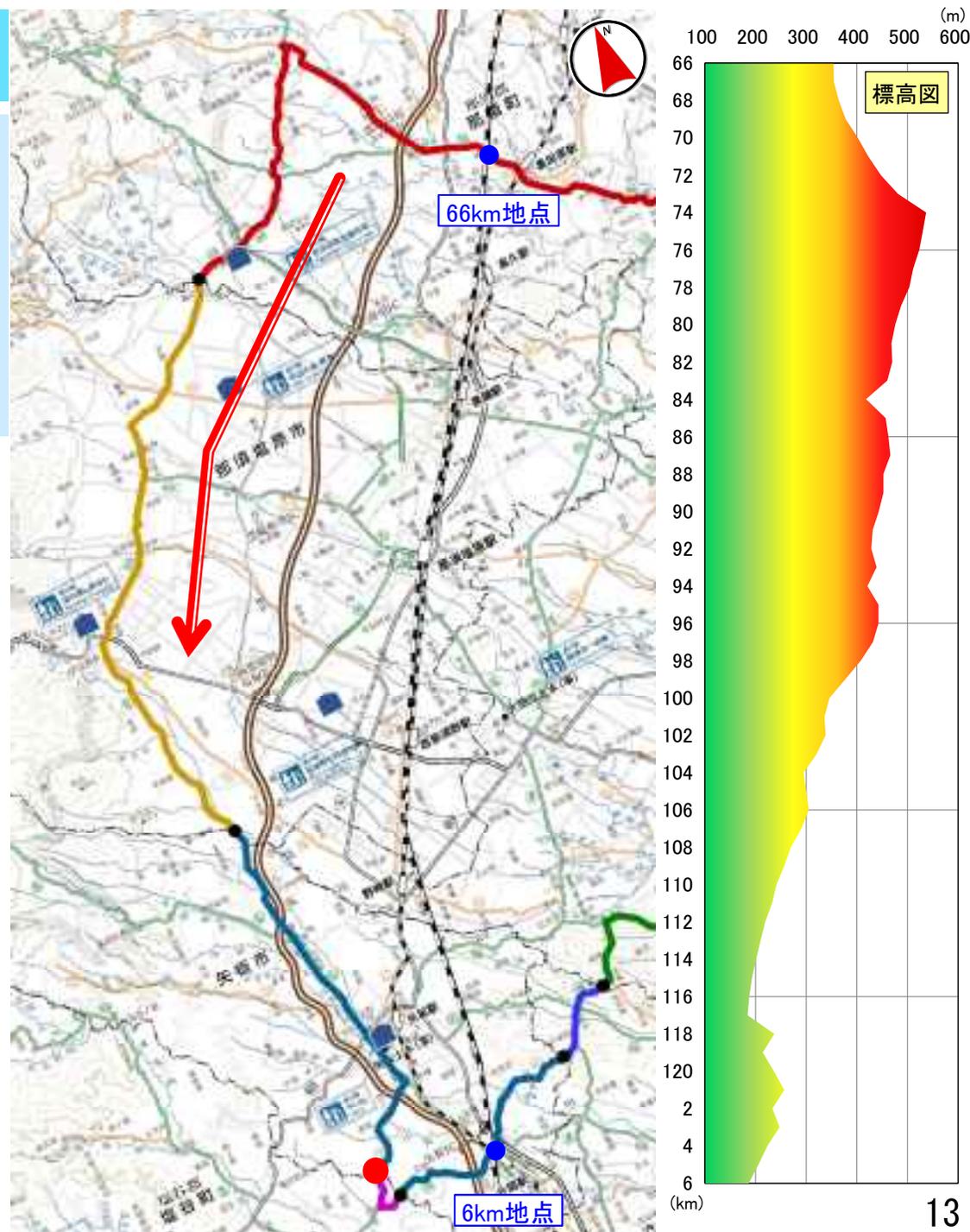
写真 那須岳(那須町)



写真 道の駅那須高原友愛の森(那須町)



写真 道の駅湯の香しおばら(那須塩原市)



1-12 モデルルート(案)のコンセプト

(5) エリア[西側]南部

- 日光国立公園の一角をなす高原山や豊富な田園風景など自然の恵みを感じるエリア
- 体験型観光の「りんご狩り」やグルメ、温泉などの観光資源が豊富なコース



写真 もみじ谷大吊橋(那須塩原市)



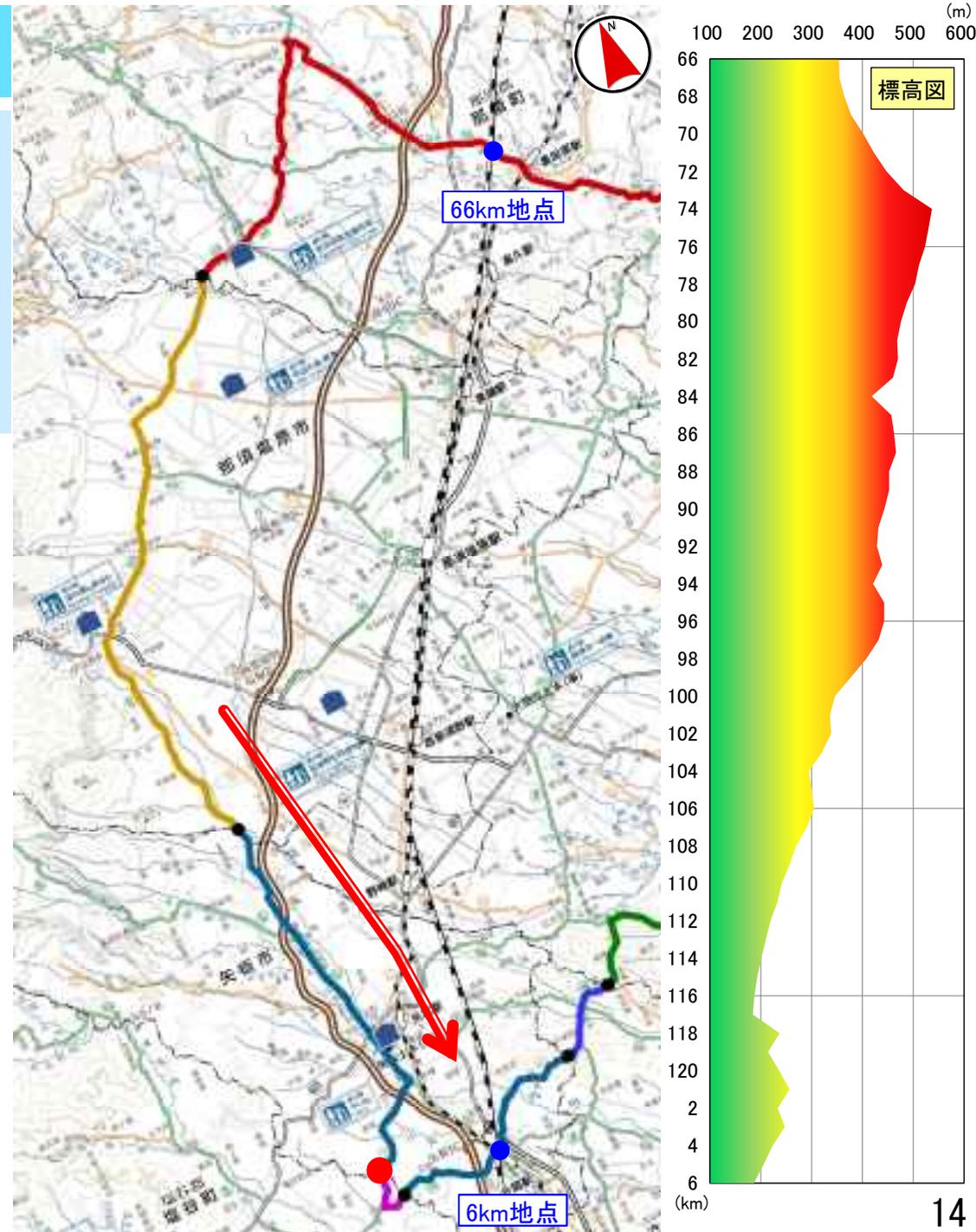
写真 りんご狩り(矢板市)



写真 尚仁沢湧水(塩谷町)



写真 道の駅やいた(矢板市)



2 今後の進め方(案)について

2-1 今後の進め方(案)

○令和2(2020)年7月31日(本日)



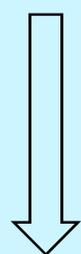
第1回 県北地域サイクルツーリズム推進協議会
内 容 モデルルート(案)の提示

○令和2(2020)年8月～9月



内 容 モデルルート(案)の試走

○令和2(2020)年10月



第2回 県北地域サイクルツーリズム推進協議会
内 容 モデルルートの決定
モデルルート名称(案)の提示

○令和2(2020)年12月

第3回 県北地域サイクルツーリズム推進協議会
内 容 モデルルート名称の決定
活用の仕方の検討